

サイエンスカフェの概要について（事後報告）

1. 開催日時：令和元年5月23日（木） 20時30分～22時30分

2. 開催場所：Shot Bar 周太郎（大阪府豊中市曾根西町3-5-33）

3. 関係団体等：なし

4. 役割

コーディネーター：中村征樹（大阪大学准教授・日本学術会議連携会員）

ゲスト：山根承子（大阪大学経済学研究科招へい研究員）

5. 概要：

今回のサイエンスカフェは、幸福度に関する経済学をテーマに行われた。まずは、経済学に対する一般的な誤解を解くところから始まった。一見すると経済学は「お金の話をする学問」や「お金を儲ける方法を研究する学問」と思われがちだが、ゲストによれば、実際には「社会全体の幸福を最大化するにはどうするかを研究する学問」である。伝統的な経済学では合理的な人間が想定され、現象をモデル化するために細かな部分が単純化される傾向があったが、心理学の方法論を取り入れた「行動経済学」では、従来よりも現実的な人間を想定した研究が行われるようになってきている。その一方で、行動経済学が個々人の傾向に注目するかというところではなく、行動経済学においても「社会全体の幸福に注目する」という経済学の伝統は継承されているという。

また、幸福度の測定には、「全体的にみて、あなたはどの程度幸福ですか」というような問いが用いられる。その結果は海外と日本で大きく異なるものの、日本人に対して生活の満足度について質問すると、その回答傾向は海外のデータと類似することが紹介され、幸福度と満足度との関係についても議論が盛り上がった。

そのほか、行動経済学で用いられる「信頼ゲーム」などのゲーム実験に関すること、「幸福度などの主観的報告がどれほど信用できるのか」といった方法論的な問題、「主観的幸福と客観的幸福の違いはあるのか」といった哲学・倫理的な問題なども話題に上った。

経済学は、その名称や表層的な情報から受ける印象と、実際に行われている研究内容にギャップがある学問である。ゲストから紹介される経済学の実際に参加者の興味は尽きず、活発な議論が盛り上がった一日だった。

6. 参加人数：

講演者等：3名

その他の参加者：14名

7. 特記事項：

会場となった「Shot Bar 周太郎」には、サイエンスカフェの趣旨に賛同いただき、参加者に1ドリンク以上の注文をお願いすることで会場を無償で提供いただいたほか、常連客へのイベントの告知にも協力いただいた。また、ゲストのドリンクについてサービスしていただいた。